

Morgan Stanley MUFG Kyoto Trip 2018

日本語資料

Masao Okawa
Managing Director
HORIBA, Ltd.

June 14-15, 2018

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
- 財務データ
- 会社概要紹介

※本プレゼンテーションにおける2015年の実績は、2016年に変更した収益認識基準に遡及適用後の値を記載しております。

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

2017年の振り返り

外部環境

- ◆ トランプ政権発足
- ◆ 英国EU離脱通告→英国総選挙
- ◆ フランス大統領選挙、ドイツ連邦議会選挙
- ◆ 半導体業界活況→IoT、AI、自動運転などの技術革新へ
- ◆ 電動化、排ガス規制

内部状況

- ◆ 新拠点・センター開設(米国、英国、韓国 等)
- ◆ 阿蘇工場拡張工事完了
- ◆ 医用大型業務提携
- ◆ 新経営体制への移行が決定
- ◆ 上場来高値更新、時価総額3,300億円突破

2017年12月期 決算概要

売上高、利益、配当いずれも過去最高を更新。ROEは11.5%

P&L

◆自動車と半導体セグメントが前年比増収増益を達成

B/S

◆総資産は設備投資により+262億円の2,659億円

◆有利子負債は金融子会社設立(米・英)により▲46億円の420億円

◆自己資本比率は56.5%

CF

◆利益計上などにより、営業CF: +282億円
◆設備投資などにより、投資CF: ▲131億円 } フリーCF: +151億円

◆短期借入金の返済などにより、財務CF: ▲90億円

2017年12月期 通期連結実績

(単位:億円)

	2016年	2017年			
	実績	予想 (2017/12/19時点)	実績	vs前年	vs前回予想
★ 過去最高					
売上高	1,700	1,920	★ 1,953	+253	+33
営業利益	184	245	★ 268	+83	+23
営業利益率	10.9%	12.8%	13.7%	+2.8p	+1.0p
経常利益	182	235	★ 266	+83	+31
親会社株主に帰属 する当期純利益	129	150	★ 162	+33	+12
USD(円)	108.78	111.00	112.16	+3.38	+1.16
ユーロ(円)	120.26	127.00	126.70	+6.44	▲ 0.30

2017年12月期 通期連結実績(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高					営業利益				
	2016年	2017年				2016年	2017年			
	実績	予想 (2017/12/19時点)	実績	VS 前年	VS 前回予想	実績	予想 (2017/12/19時点)	実績	VS 前年	VS 前回予想
★ 過去最高										
自動車	622	720	★ 733	+111	+13	35	67	★ 76	+41	+9
環境	167	170	★ 174	+6	+4	15	6	10	▲ 4	+4
医用	265	250	251	▲ 13	+1	28	17	19	▲ 8	+2
半導体	388	520	★ 533	+144	+13	96	150	★ 156	+59	+6
科学	257	260	261	+3	+1	9	5	4	▲ 4	▲ 0
合計	1,700	1,920	★ 1,953	+253	+33	184	245	★ 268	+83	+23

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- **2018年12月期 通期 業績予想**
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

2018年市場環境の想定

自動車		日本・アジアを中心とした排ガス規制強化や、電動化・自動運転技術開発の加速により、自動車関連メーカーの投資意欲旺盛
環境		原油価格上昇による石油産業の投資回復 新興国での環境規制強化
医用		国内：開業医市場の需要は堅調 海外：新興国では血液検査需要拡大
半導体		半導体メーカーの設備投資は引き続き活況 自動車の電動化によるパワー半導体需要拡大にも期待
科学		半導体市場向け分光器の需要は堅調 二次電池・半導体市場の活況による新素材研究加速

2018年想定為替レート

(単位:円)

	2016年	2017年	2018年		
	実績	実績	予想 (2/13時点)	予想 (5/9時点)	VS 前年
USドル	108.78	112.16	110	110	▲ 2.16
ユーロ	120.26	126.70	130	130	+ 3.30

2018年予想: 1円円高による営業減益額(通期)

USドル 2.1億円

ユーロ 0.2億円

2018年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

	2016年	2017年	2018年		
	実績	実績	予想 (2/13時点)	予想 (5/9時点)	vs前年
★ 過去最高					
売上高	1,700	1,953	2,100	★ 2,180	+226
営業利益	184	268	290	★ 340	+71
営業利益率	10.9%	13.7%	13.8%	15.6%	+1.9p
経常利益	182	266	284	★ 334	+67
親会社株主に帰属する 当期純利益	129	162	190	★ 225	+62
一株利益(円)	307	386	450	533	+147
ROE	10.0%	11.5%	12.1%	14.3%	+2.8%

2018年12月期 通期業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高				営業利益			
	2017年 実績	2018年 予想 (2/13時点)	2018年 予想 (5/9時点)	vs 前年	2017年 実績	2018年 予想 (2/13時点)	2018年 予想 (5/9時点)	vs 前年
★: 過去最高								
自動車	733	790	★ 790	+56	76	80	★ 80	+3
環境	174	190	★ 190	+15	10	14	14	+3
医用	251	260	260	+8	19	20	20	+0
半導体	533	580	★ 660	+126	156	170	★ 220	+63
科学	261	280	★ 280	+18	4	6	6	+1
合計	1,953	2,100	★ 2,180	+226	268	290	★ 340	+71

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- **セグメント別詳細説明**
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

次のスライドへ

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

2017年実績

- + 排ガス** 全世界での規制対応により販売増加
- + MCT^{※1}** 自動車メーカーの投資回復による販売増加
- + ECT^{※2}** MIRA日本チーム設立による費用増加
次世代規制・技術開発に向けた積極投資

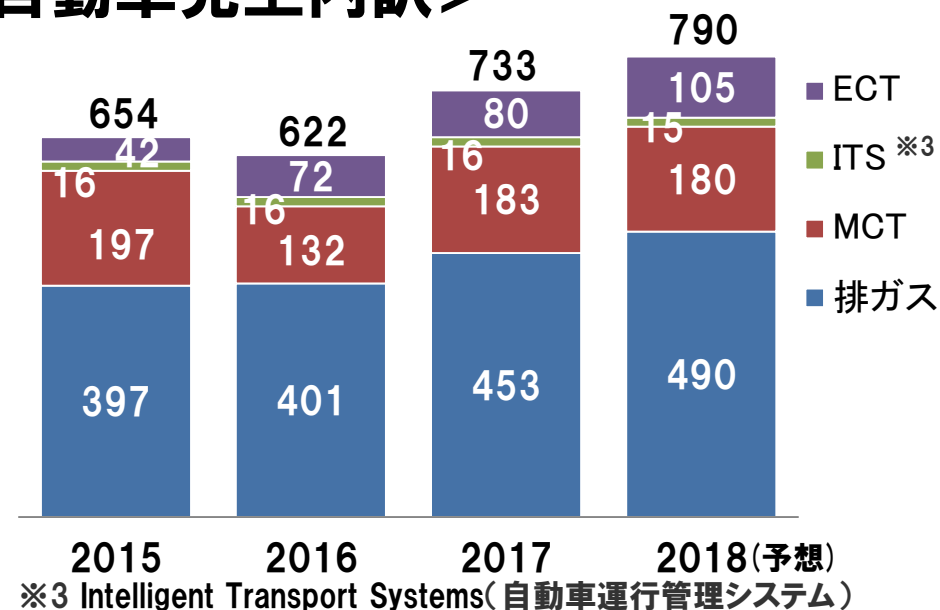
※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)

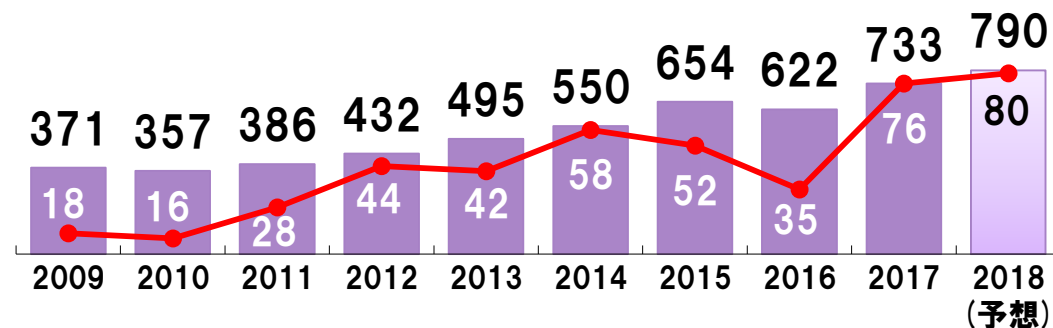
2018年予想

- + 排ガス** 欧州では新規規制導入後も需要は堅調
中国・インドでは新規規制導入に向けて需要増
- + MCT** 2018年は横ばいも、2019～20年にかけて
自動車メーカーの新棟建設加速
- + ECT** 積極投資により、次世代技術開発関連の
受注拡大

<自動車売上内訳>



売上高・営業利益推移(通期)



次世代排ガス規制の状況・電動化への対応

(単位:億円)

次世代排ガス規制の導入状況

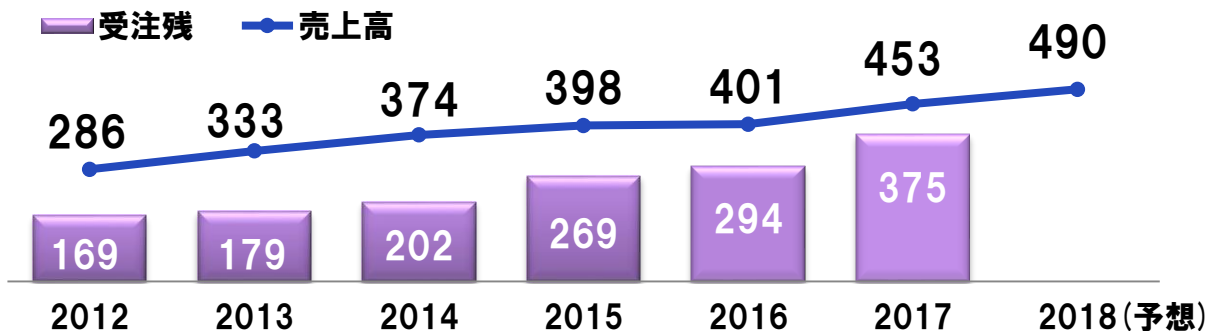
規制	EU	日本
WLTP※1	2017年9月	2018年10月(予定)
RDE規制※2		2022年(予定)

中国・インド:2020年新規制導入予定(ユーロ6同等)

※1 Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure
(国連提唱の世界統一排ガス試験法)

※2 Real Driving Emission(実路排ガス規制)

<排ガス売上高・受注残推移>



電動化への対応

試験設備の提供

単体(駆動系・モーターなど)から実車までカバー

電気モーター試験設備



電気自動車の試験



電池開発・分析

- バッテリーパックや管理システムの開発・試験(ホリバMIRA社)
- リチウムイオン電池や全固体電池の分析・評価(科学の技術を活用)

バッテリー開発



科学製品による
材料分析



技術リソースの相互活用でビジネス拡大

電動化車両用バッテリー評価試験設備の新設

リアルとバーチャルをつなぐ先進評価コンセプトの導入

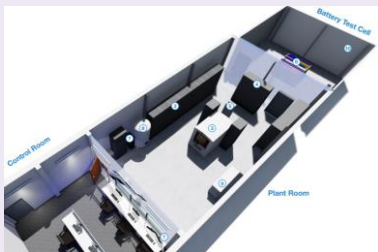


電動化車両用バッテリー評価試験設備 (HORIBA BIWAKO E-HARBOR)

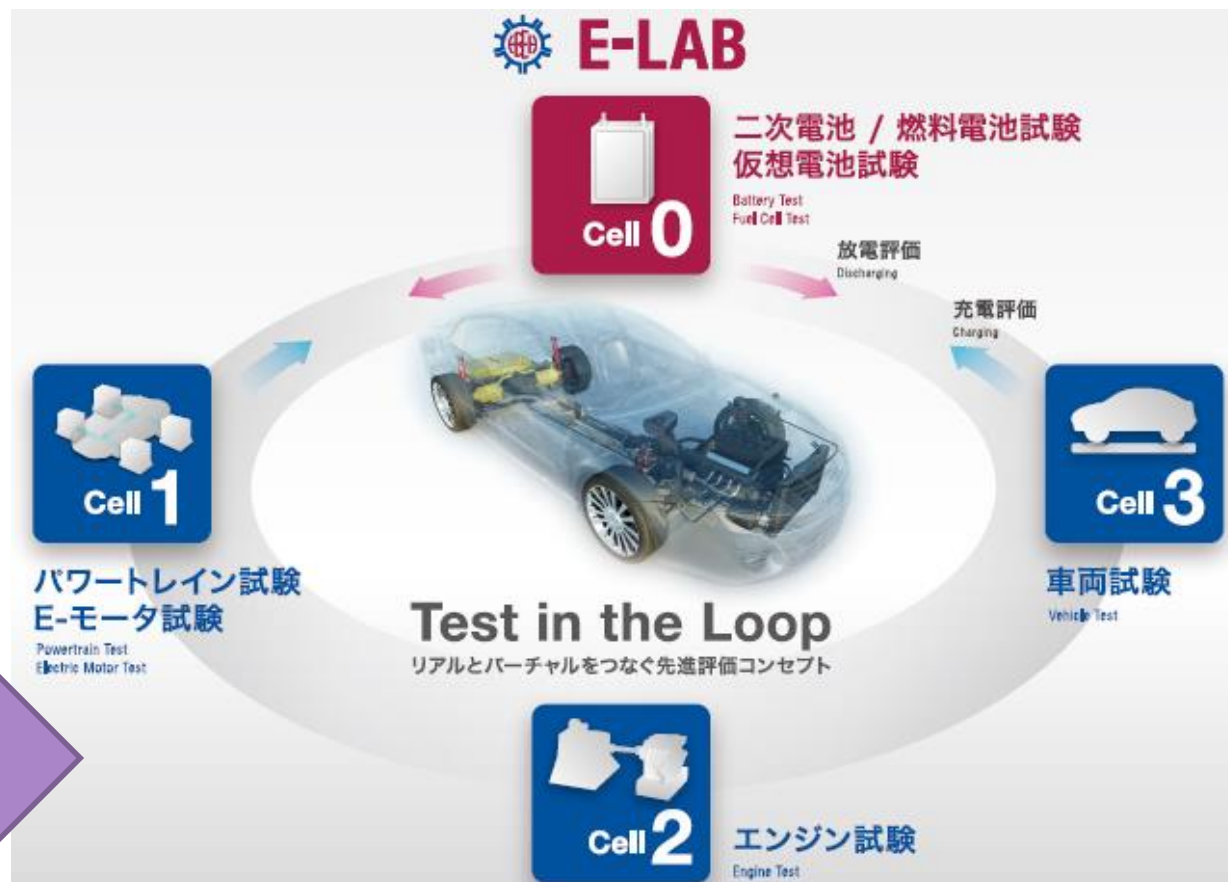
- 電動化車両用バッテリーや燃料電池と
パワートレイン/車両の組み合わせ評価が可能
- 恒温槽により幅広い温度環境試験を実現
- 2019年7月稼働予定、総工費約13億円



先進的バッテリー開発試験設備 Advanced Battery Development Suite (ABDS) (ホリバMIRA社)



ホリバMIRA社の
エンジニアリング
能力をグローバル
展開



自動運転技術開発への貢献

英国国内でのビジネス

英国政府主導のプロジェクトに参画

- 自動運転プロジェクト「UK Autodrive」
- ホリバMIRA社の設備で実証実験を主催

「UK Autodrive」の主なメンバー※



※UK Autodrive Consortium members

<http://www.ukautodrive.com/consortium-members/> より

英国政府からの新案件を受注

自動運転車の多目的試験設備を建設
(通信機能、衝突・車両旋回などの検証)

試験設備の完成予想図



グローバル展開への取り組み



駐日英国大使館でのイベント開催

- 自動車関連メーカーや英国政府要人が出席
- 電気自動車・自動運転ビジネスの可能性を紹介

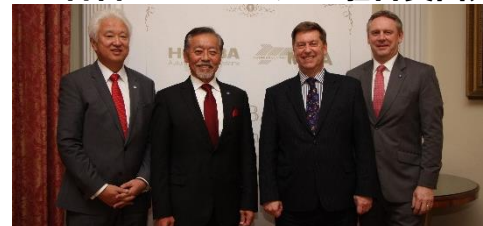


英国メイ首相の中国訪問に同行

- ホリバMIRA社CEOのジョージ・ギレスピーが同行
- 英国自動車産業の代表として選出

英国を中心にグローバルなビジネス展開を加速

駐日英国大使館でのイベント
(右から2番目: ポール・マデン 駐日英国大使)



英国メイ首相訪中



2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

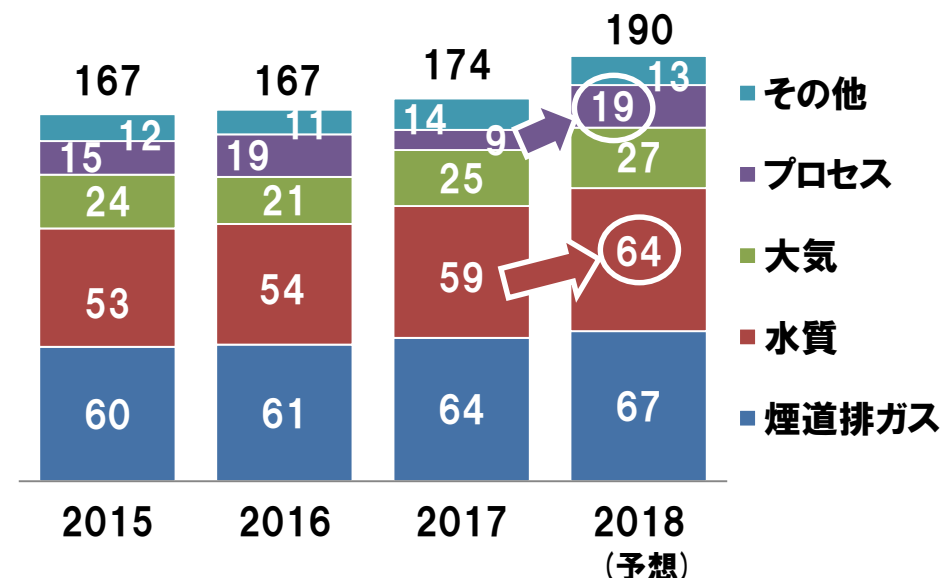
2017年実績

- + 煙道排ガス分析装置 { 国内:リプレイス需要堅調
中国:VOC規制で販売堅調
- 北米のプロセス計測設備ビジネスは、原油産業の投資減により販売低調

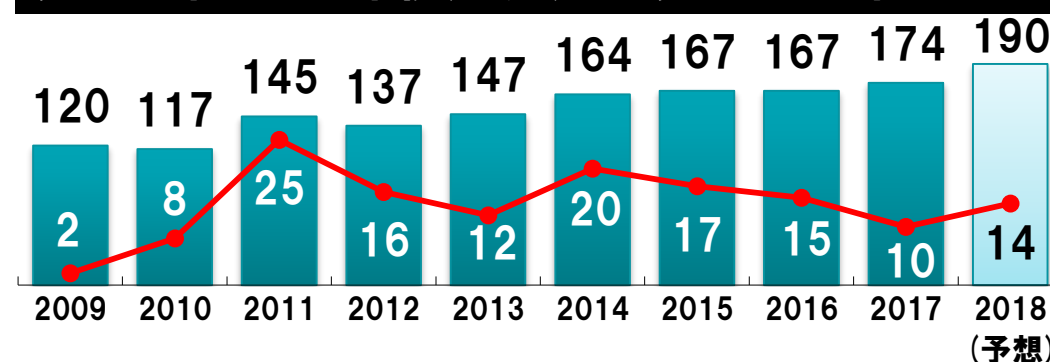
2018年予想

- + 煙道排ガス分析装置は、国内リプレイス需要を確実に取り込み。中国VOC規制進展にも期待
- + プロセス計測設備は、原油産業の投資回復により販売増
- + 水質計測装置は国内リプレイス需要の取り込み、新興国でのビジネス拡大により販売増

<ビジネス別売上高>



売上高・営業利益推移(通期)



新興国市場のビジネス拡大

ガス

新興国での需要に応える新製品発売
(直挿式レーザー塩化水素計「TX-100」)

特徴: 部品の定期交換不要・容易な校正
→ランニング/メンテナンスコスト削減
期待: 拡大するごみ焼却場・清掃工場に投入

ローカルエンジニアリングの強化(インド・中国)

煙道排ガス分析装置を現地仕様にカスタマイズ

TX-100(中国清掃工場へ導入)



インドでの現地カスタマイズ



水質

現地規制への対応による販売増

韓国 排水規制内容変更



→迅速な改造対応で現地認証取得

インド ➤ 現地工業規格の認証取得



➤ 販売代理店増加による販路拡大

各国工場の排水処理工程へ水質計測装置導入



【排水処理場】

韓国



インド

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

2017年実績

- +- 日本での自動血球計数CRP測定装置の販促強化による費用の増加
- 南米での血液検査装置の販売減
- +- 新製品投入による販売促進費用、米国FDA承認取得費用の増加

最新検査システム



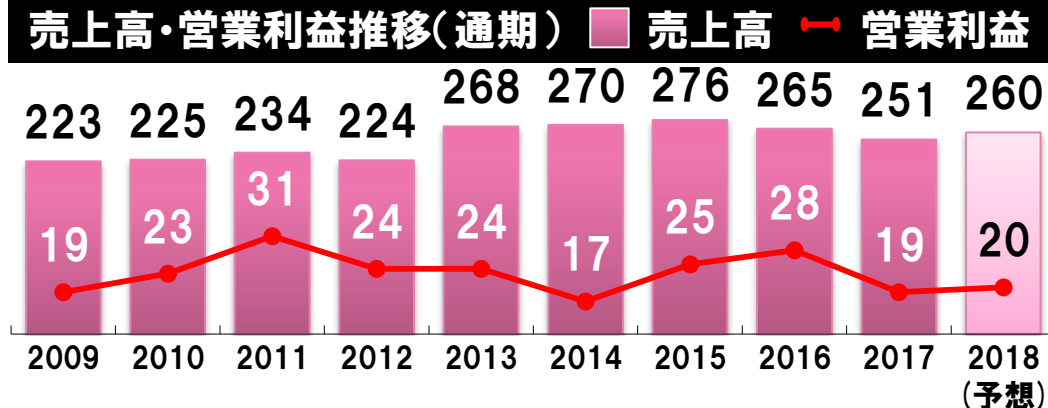
Solution
(2017年発売)



ブラジルでの顧客ラボ据付完成予定図

2018年予想

- 日本での自動血球計数CRP測定装置の競争激化
- +- 新製品投入による販売増、販売促進費用、米国FDA承認取得費用の増加



ビジネス拡大に向けた取り組み

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社
(シーメンス社)と長期的パートナー契約締結

契約月:2017年10月

内 容:検査装置、画像診断装置、治療システムなど
総合的ヘルスケアを提案するシーメンス社に
中大型血球計数装置を供給

HORIBA Yumizenブランドと両輪での拡販をめざす

<検査カテゴリー別の事業展開>

検査カテゴリー		生化学	血球計測	免疫	凝固
市場規模		2兆円	3,500億円	2兆円	2,000億円
病院	大病院 検査センター				
	中小病院				
開業医					
病棟・手術棟(POCT)					

Diagram illustrating business expansion by examination category:

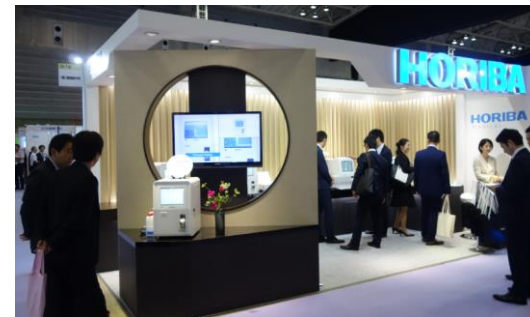
- 生化学 (Biochemistry):** Represented by a green box with arrows pointing up, down, left, and right.
- 中/小型血球計数 (Mid/Small Hematology):** Represented by a red dashed box with arrows pointing up, down, left, and right.
- CRP (C-reactive protein):** Represented by a blue box with arrows pointing left and right.
- 中/小型凝固装置 (Mid/Small Coagulation Device):** Represented by a blue box with arrows pointing left and right.

日本、フランスの技術が融合した
新製品 “Yumizen H630CRP”

- 白血球5分類(フランス)
+CRP測定(日本)
- 開業医、中小病院向け
- 電子カルテ対応ソフトウェア
「GATE LINK」と連携



新製品
Yumizen H630CRP



展示会
(2017年11月販売開始)

半導体

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

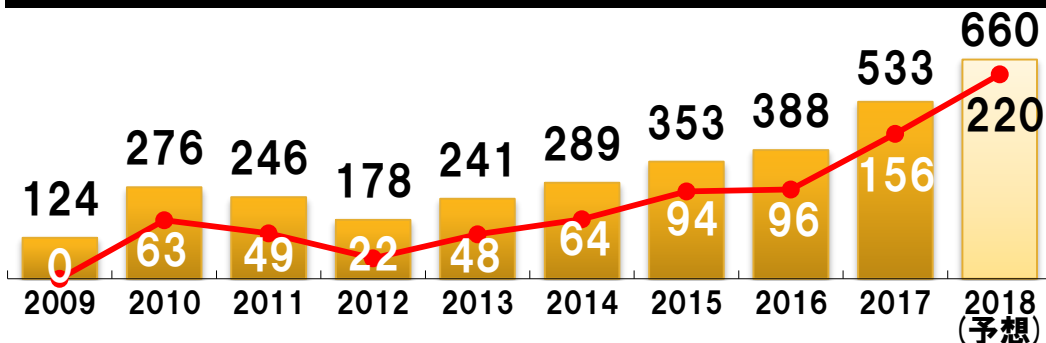
2017年実績

- + 売上高・営業利益ともに過去最高
- + マスフローコントローラー(MFC)の生産量は過去最高水準

2018年予想

- + 年前半の半導体メーカーの設備投資需要は堅調
- + 阿蘇工場拡張による供給能力拡大

売上高・営業利益推移(通期) ■ 売上高 ● 営業利益



半導体市況及びMFC関連市場トピックス

データセンターのストレージ量増加
AIやIoT関連のビッグデータ処理増加
自動車における半導体使用量増加

半導体・
製造装置の
需要増加

半導体製造技術の変化
(微細化、3D-NAND、多層化)

エッチング
装置の
需要拡大

マスフローコントローラー需要増加

ハイエンドエッチング装置に対しての強み

PI (Pressure Insensitive) 機能を搭載し、
急激な圧力変動に対して、安定した
流量制御を実現

差圧式MFC
CRITERION D500



安定供給体制の確立と販売・サービス能力の強化

阿蘇工場拡張工事完了

能力増強によりさらなる需要増に対応
高品質な製品をタイムリーに納入

金額: 約27億円 / 完成: 2017年12月
狙い: MFCの生産能力拡大(延床面積約1.5倍)
生産状況: 2018年3月に過去最高の生産台数



堀場エステック阿蘇工場外観

海外サービス・販売拠点の強化

韓国「堀場エステック・コリア社、新拠点開設」

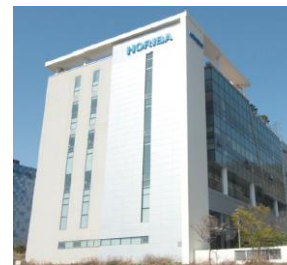
- 2017年4月開設
- 生産能力強化、エンジニア増員

台湾「ホリバ・台湾社 新拠点開設」

- 2017年9月開設
- クリーンルームを1→2部屋に増設

中国「サービスオフィス新設(武漢、南京)」

顧客に密接したサービスを展開



堀場エステック・コリア社新拠点



ホリバ・台湾社 オープニングセレモニー

マスフローコントローラー 世界シェア 約60% 自社調べ(2017年12月現在)

2017年実績／2018年予想

(単位:億円)

2017年実績

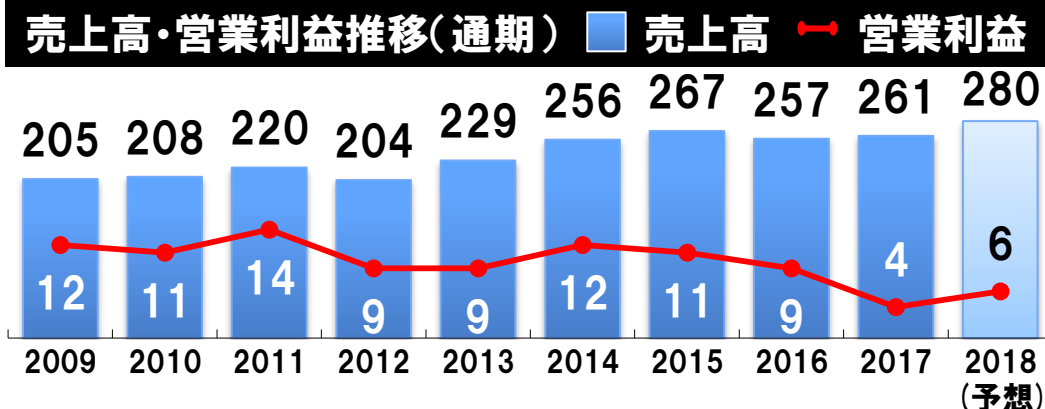
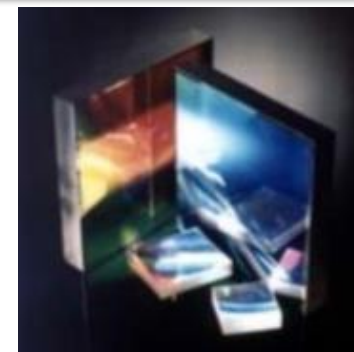
- 日、米、欧で大学向けなどの研究開発用分析装置の販売が低調 ⇔ + 中国向け好調
- + 新製品投入に向けて開発費用増加
- + 米国半導体市場向け分光器の販売が好調

2018年予想

- + 引き続き分光器の販売は堅調に推移
- + 日、米、欧にて大学向け製品の需要回復
- + お客様のニーズに合わせた製品カスタマイズによる新規市場開拓

グレーティング（回折格子）

- 分光分析装置の心臓部
- 世界トップレベルの技術
- 1997年にHORIBAグループ入りしたホリバ・フランス社（旧ホリバ・ジョバンイボン社）が開発、生産

ホリバ・フランス社
ヨーロッパ・リサーチセンター

新市場向け新製品と成長市場での取り組み

バイオ・ライフサイエンス市場向け 新製品「DUETTA」

- 蛍光吸光分光装置
- 抗体治療医薬の開発に使用
- 2014年に買収した旧Photon Technology International社(米)と旧米国ホリバ・ジョバンイボン社の技術を融合



高速検出器を用い
スピーディな測定を実現



操作性を追求した
新ソフトウェアを使用

ラマン分光分析装置 中国ビジネス拡大と最先端技術への応用

ラマン・蛍光分光技術シンポジウムを開催

材料分析・エネルギー・
化学関連などの技術者
80名参加

(2017年8月中国敦煌市で開催)



東レリサーチセンターがHORIBAラマンで 新分析手法を開発

- 従来の顕微ラマンにAFM
(原子間力顕微鏡)技術を融合
- ナノメートルレベルの分析が可能



パワー半導体の構造解析に有効



AFM (原子間力顕微鏡)
ラマン

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- **株主還元**
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

株主還元政策

基本的な考え方

- 配当金＋自己株式取得 ＝ 連結純利益×30％ を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

配当金及び自己株式の取得

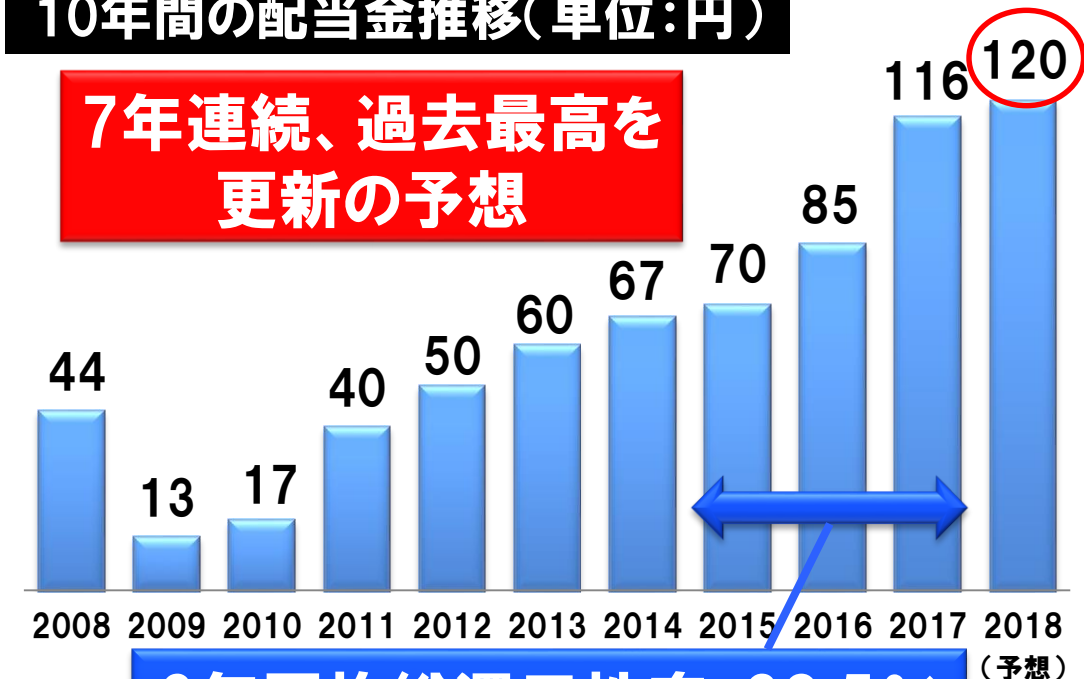
2016年実績 85円 [中間 30円、期末 55]

2017年実績 116円 [中間 40円、期末 76円]

2018年予想 120円 [中間 50円、期末 70円]

10年間の配当金推移(単位:円)

7年連続、過去最高を
更新の予想



3年平均総還元性向:29.5%

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

新経営体制への移行

氏名	新	旧
堀場 厚	代表取締役会長 兼グループCEO	代表取締役会長兼社長
齊藤 壽一	代表取締役副会長 兼グループCOO	代表取締役副社長
足立 正之	代表取締役社長	専務取締役
長野 隆史	取締役グローバルATS(自動車計測事業)ボード リーダー	取締役 営業本部長

新経営体制の狙い

グループ経営力強化、経営体制明確化、堀場製作所の更なる技術力/開発力強化

今後の役割

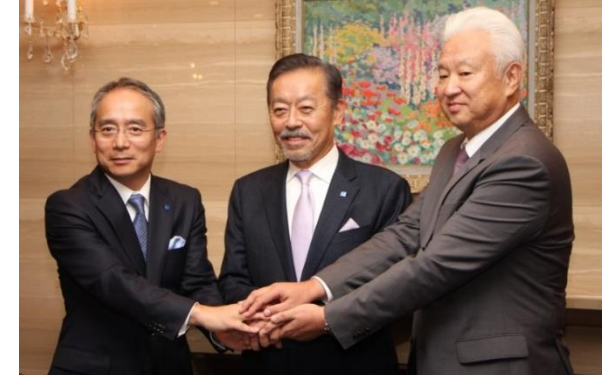
堀場：ガバナンスの強化や企業文化の浸透、グループ全体を統括

齊藤：グループ全体を統括し、具体的な戦略をリード

足立：堀場製作所の経営に注力、グループ本社としての機能強化

長野：自動車計測事業に集中し、グローバルなビジネス拡大を加速

2017年10月24日開催の記者会見



現場に寄り添った働き方改革

ステンドグラス・プロジェクトの取り組み

STEP1
2014年

「女性活躍推進」からスタート

STEP2
2015年～

「働き方改革」ワークショップ開始
テーマ「一人ひとりの行動変化」

STEP3
2017年～

経営・人事・現場を繋ぐ
現場・組織毎の特徴を生かす

2018年の重点施策

- 会議効率化：運営方法策定、全社展開
- 現場に沿った柔軟なワークスタイル
実現に向けた制度導入の検討



2017年 活動の振り返り



カエル会議

「早くカエル」
「仕事のやり方をカエル」
「自分をカエル」

34回実施
(約340名参加)

「会議の効率化」
が共通課題と判明

柔軟性をもった働き方の実現

- 全社アンケートによる現場の声吸い上げ
- 仕事と介護両立に向けた支援

カエル会議



仕事と介護の両立セミナー



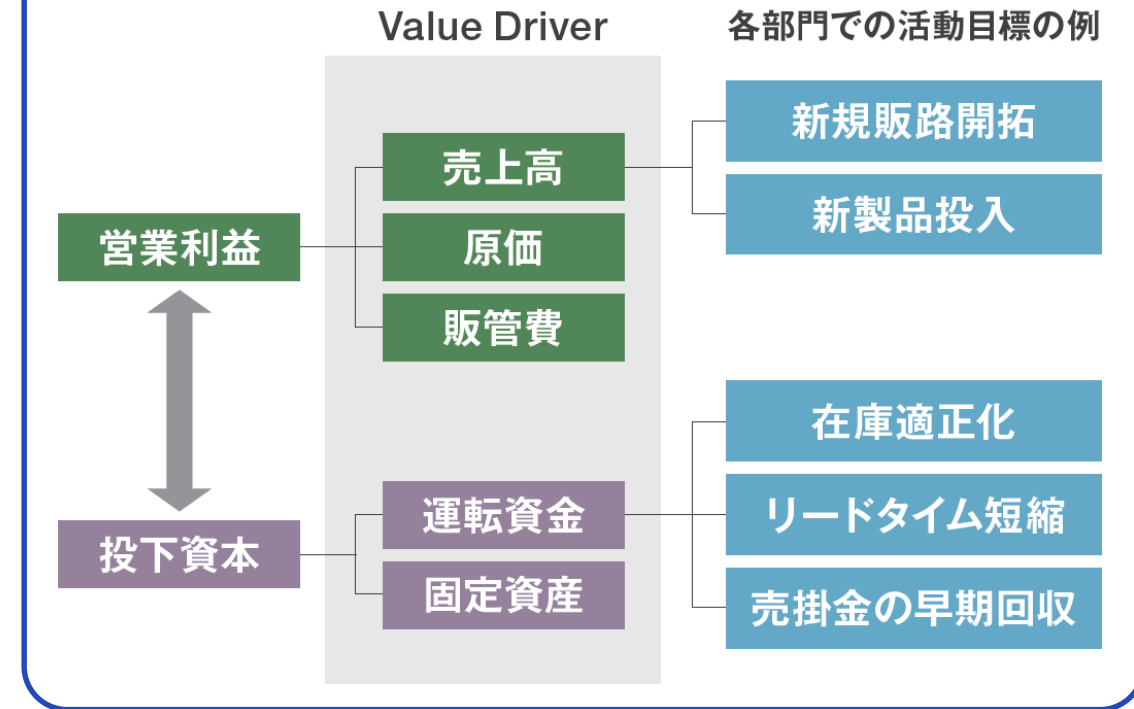
HORIBA Premium Value運用スタート

資産効率を測る独自の経営指標を予算化
「営業利益」から「資本コスト」を差し引いた指標

HORIBA Premium Value

$$= \text{営業利益} - \left[\text{投下資本} \times \text{社内資本コスト率} \right]$$

各部門での活動とのつながり



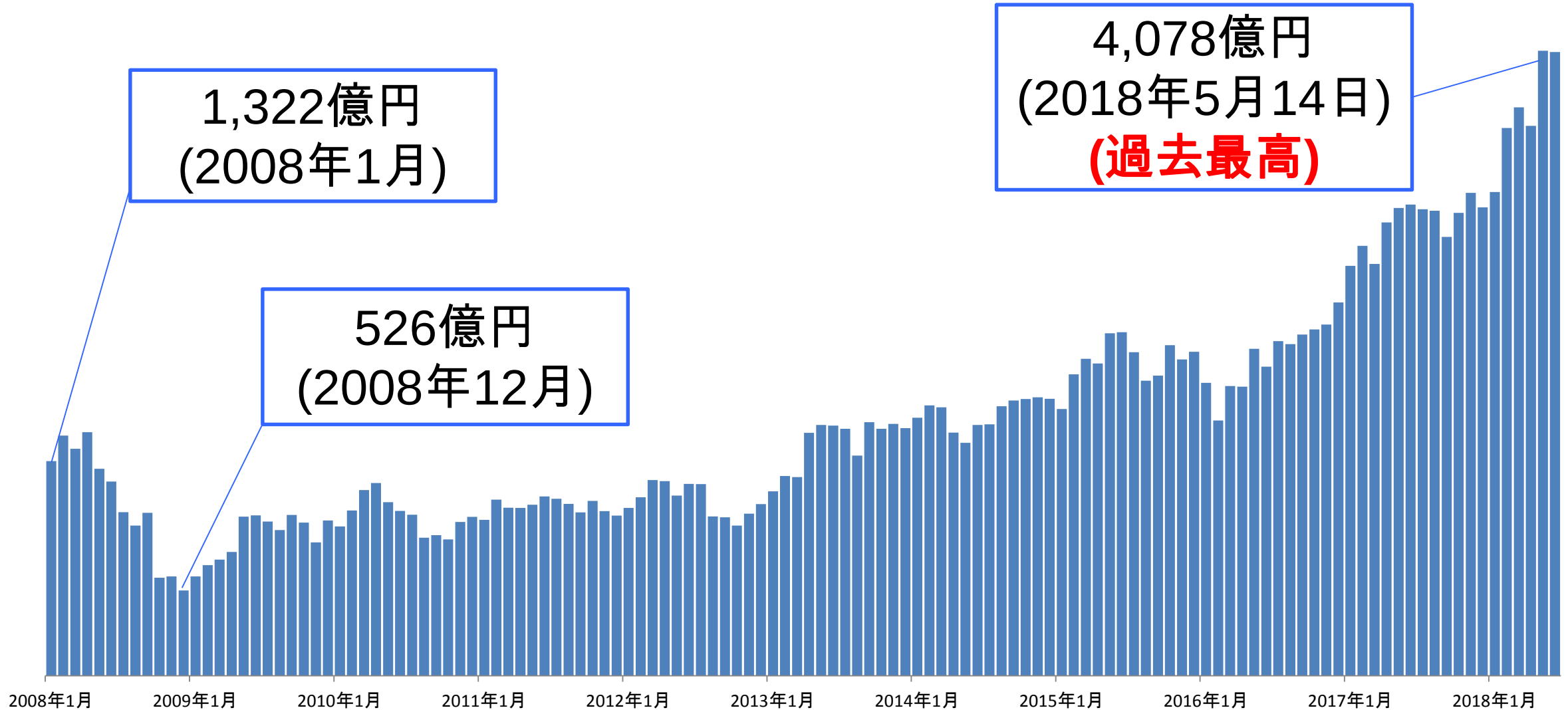
- コンセプトが浸透しやすいシンプルな計算方法
- 事業部門が日々管理指標にしている営業利益を使用
- 効果やターゲットを金額で把握できるよう絶対額で評価

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
- 財務データ
- 会社概要紹介

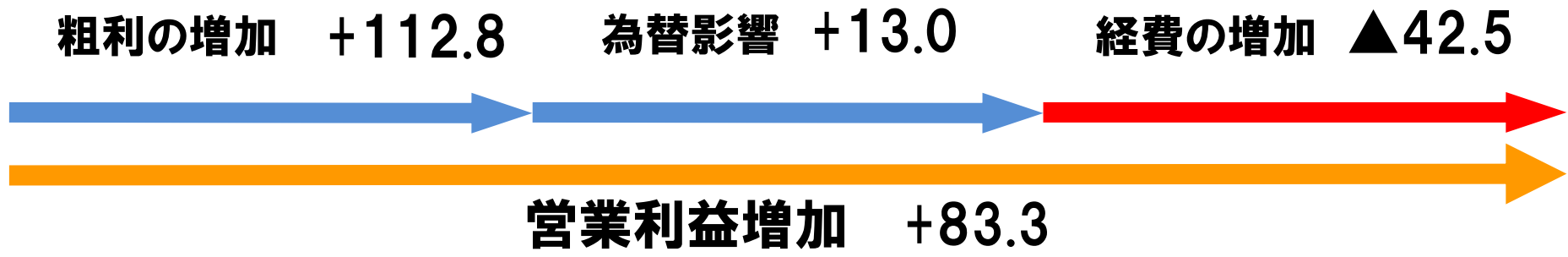
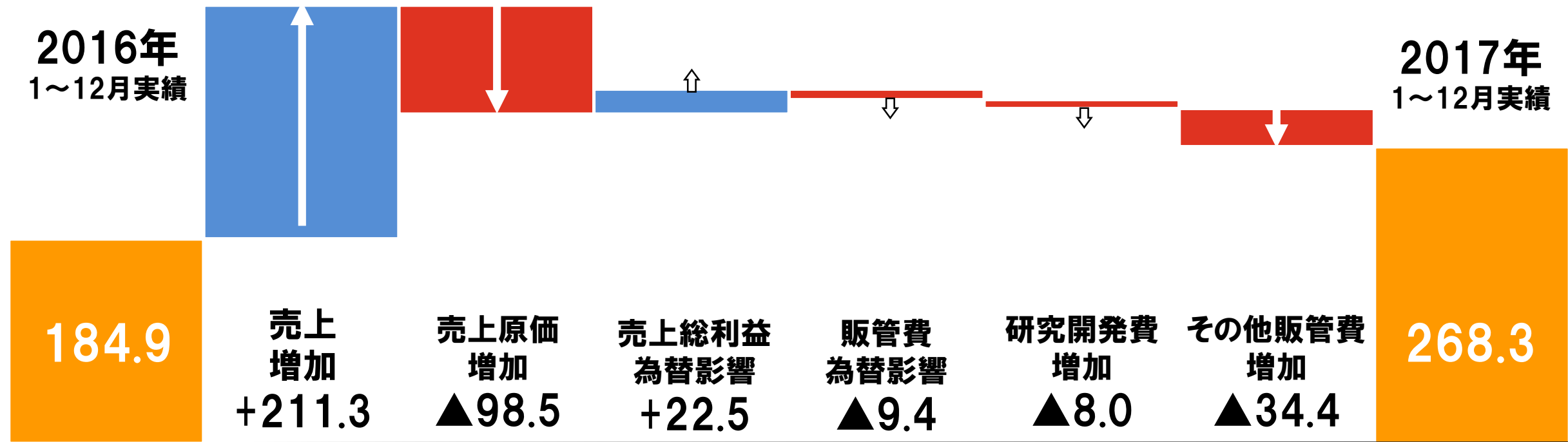
時価総額推移

(単位: 億円)



営業利益分析

(単位: 億円)



為替の売上高・営業利益への影響

(単位: 億円)

2017年通期 為替影響額(前年比)

売上高 +41.7億円 営業利益 +13.0億円

(億円)	売上高			営業利益		
	合計	USDドル	ユーロ	合計	USDドル	ユーロ
自動車	+12.6	+3.2	+9.6	+1.8	+0.5	+1.0
環境	+2.9	+0.8	+1.0	+0.9	+0.0	+0.4
医用	+7.9	+1.5	+5.1	+0.3	+1.9	▲ 0.6
半導体	+10.6	+7.0	+0.2	+8.8	+5.8	+0.1
科学	+7.5	+3.0	+4.1	+1.0	+0.3	+0.5
合計	+41.7	+15.7	+20.1	+13.0	+7.0	+1.5

※アジア通貨等の影響により、左記2通貨の影響合計が全社での影響合計に一致していません。

為替感応度(2018年通期予想) 1円円高による売上高/営業利益の影響額

売上高
USDドル ▲5.3億円
ユーロ ▲3.3億円

営業利益
USDドル ▲2.1億円
ユーロ ▲0.2億円

2016年1-12月平均実績

2017年1-12月平均実績

2018年1-12月予想

USDドル: 108.78円、ユーロ: 120.26円

USDドル: 112.16円、ユーロ: 126.70円

USDドル: 110.00円、ユーロ: 130.00円

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位:億円)

	2016年	2017年				2018年	
	通期実績	前回予想 (2017/12/19時点)	通期実績	VS 2016年	VS 前回予想	通期予想	VS 2017年
設備投資額	137	150	116	▲ 21	▲ 34	160	+44
減価償却費	68	72	75	+7	+3	75	+0
研究開発費	129	140	139	+10	▲ 1	155	+16
(対売上高比)	7.6%	7.4%	7.1%	-0.5%	-0.3%	7.4%	+0.3%

2017年 トピックス	- 有形固定資産 - 減価償却費 - 研究開発費	阿蘇工場増築(約23億円)、MIRA設備投資(約13億円) MIRAのれん等※(約4億円) 環境事業で増加
2018年 トピックス	- 有形固定資産 - 減価償却費 - 研究開発費	MIRA設備投資(約17億円)、各エリア拠点整備等 MIRAのれん減+新規投資+阿蘇工場償却費増(約1億円) 自動車計測・半導体事業で増加

※MIRAのれん等…無形固定資産の償却費含む

連結キャッシュフロー

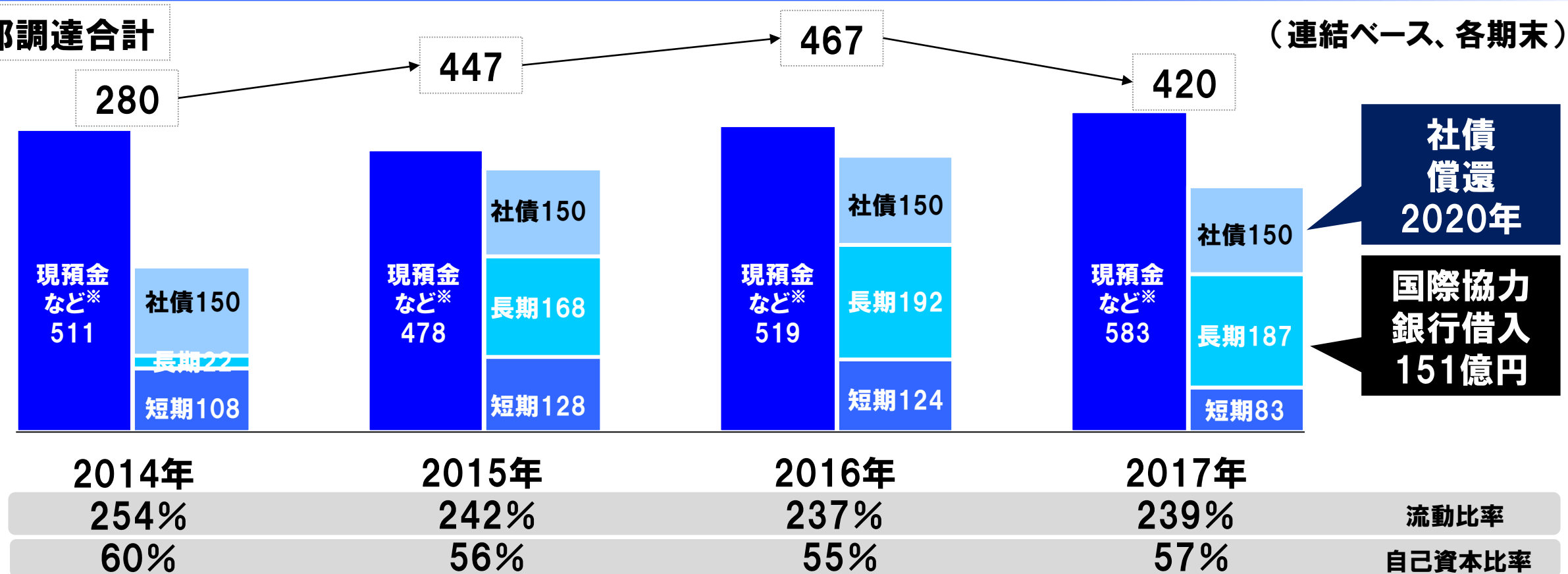
(単位:億円)

	2017年通期	2016年通期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	+282.8	+158.7	+124.1
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 131.6	▲ 104.2	▲ 27.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 90.4	▲ 4.5	▲ 85.9
現金及び現金同等物期末残高	583.3	519.4	+63.9
フリー・キャッシュ・フロー	+151.2	+54.4	+96.7

資金の状況

(単位: 億円)

(連結ベース、各期末)



- ・グループ内貸付による外部借入金削減
- ・直近の格付け: R&I「A-」(2017年7月)、JCR「A」(2017年8月)

※現金預金など…現金及び現金同等物の期末残高

説明内容

- 2017年12月期 決算概要
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
- 財務データ
- **会社概要紹介**

会社概要

■ 本社	京都市
■ 創業	1945年
■ 設立	1953年
■ 決算日	12月31日

堀場 厚

代表取締役会長兼グループCEO



- 社是 -

Omoshiro-okashiku
Joy and Fun



人生のもっとも活動的な時期を費やす仕事に
プライドとチャレンジマインドを持ち、エキサイティング
に取り組むことによって人生の満足度を高め、
よりおもしろおかしく過ごせる。

事業セグメント

自動車計測システム機器



- ・エンジン排ガス計測システム
- ・自動車試験システム
- ・自動車テレマティクス
- ・車両開発エンジニアリング(ホリバMIRA社)

環境・プロセスシステム機器



- ・大気測定、排ガス測定、水質測定機器
- ・環境放射線測定器、放射温度計
- ・環境規制市場とプロセス市場に対応

医用システム機器



- ・充実の体外診断用検査システム
- ・ホリバABX社の技術とマーケティングノウハウ

半導体システム機器



- ・マスフローコントローラー
- ・薬液濃度モニター
- ・堀場製作所、堀場エステック社、堀場アドバンスドテクノ、ホリバ・ジョバンイボン社の技術連携

科学システム機器



- ・500種類を超える理化学分析装置
- ・自動車、エネルギー、バイオリフサイエンスなど最先端科学技術分野における新素材・材料開発に貢献
- ・光計測コア技術を他セグメント製品と融合させ、新たな分析装置の開発へ応用展開

事業セグメント

自動車計測システム機器



環境・プロセスシステム機器



医用システム機器



半導体システム機器

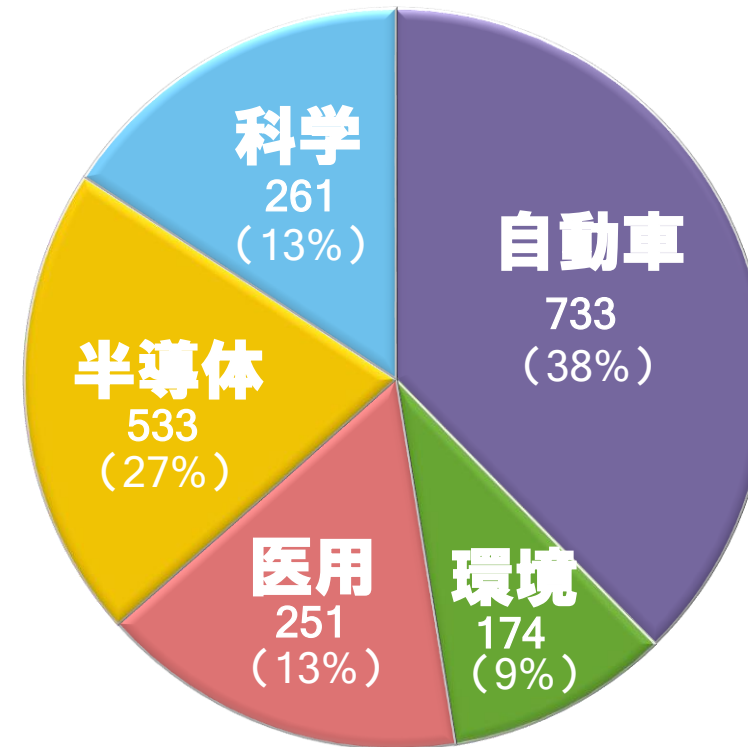


科学システム機器



売上高 1,953 億円

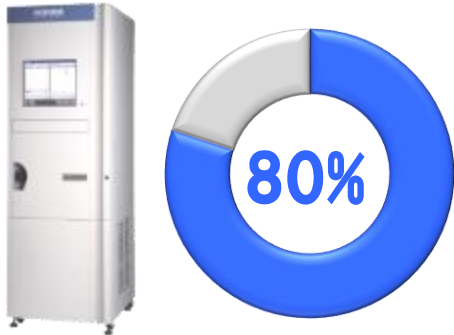
() = 売上高構成比率



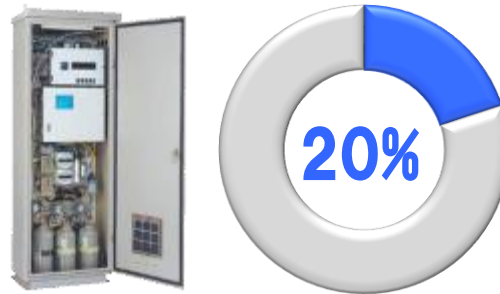
事業セグメント別売上高(億円)
2017年度

世界市場シェア

エンジン排ガス計測システム



煙道排ガス分析装置

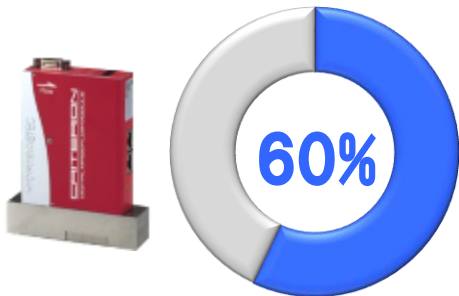


血球計数CRP計測装置



※2015年末調査時点 日本国内シェア

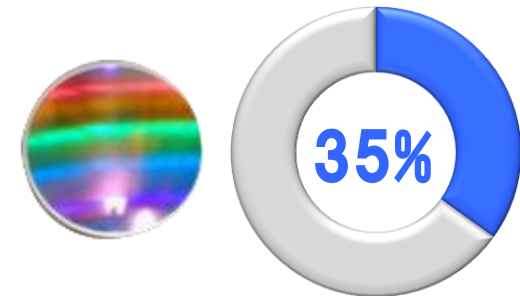
マスフローコントローラー



ラマン分光測定装置



グレーティング

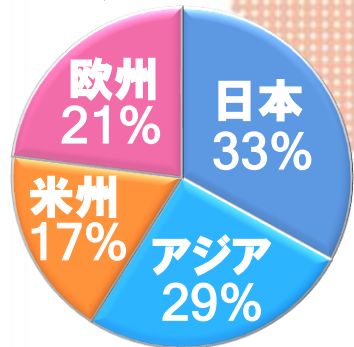


※各製品のマーケットシェアは当社推定値

グローバルネットワーク売上高

(2017年度)
売上高:1,953億円

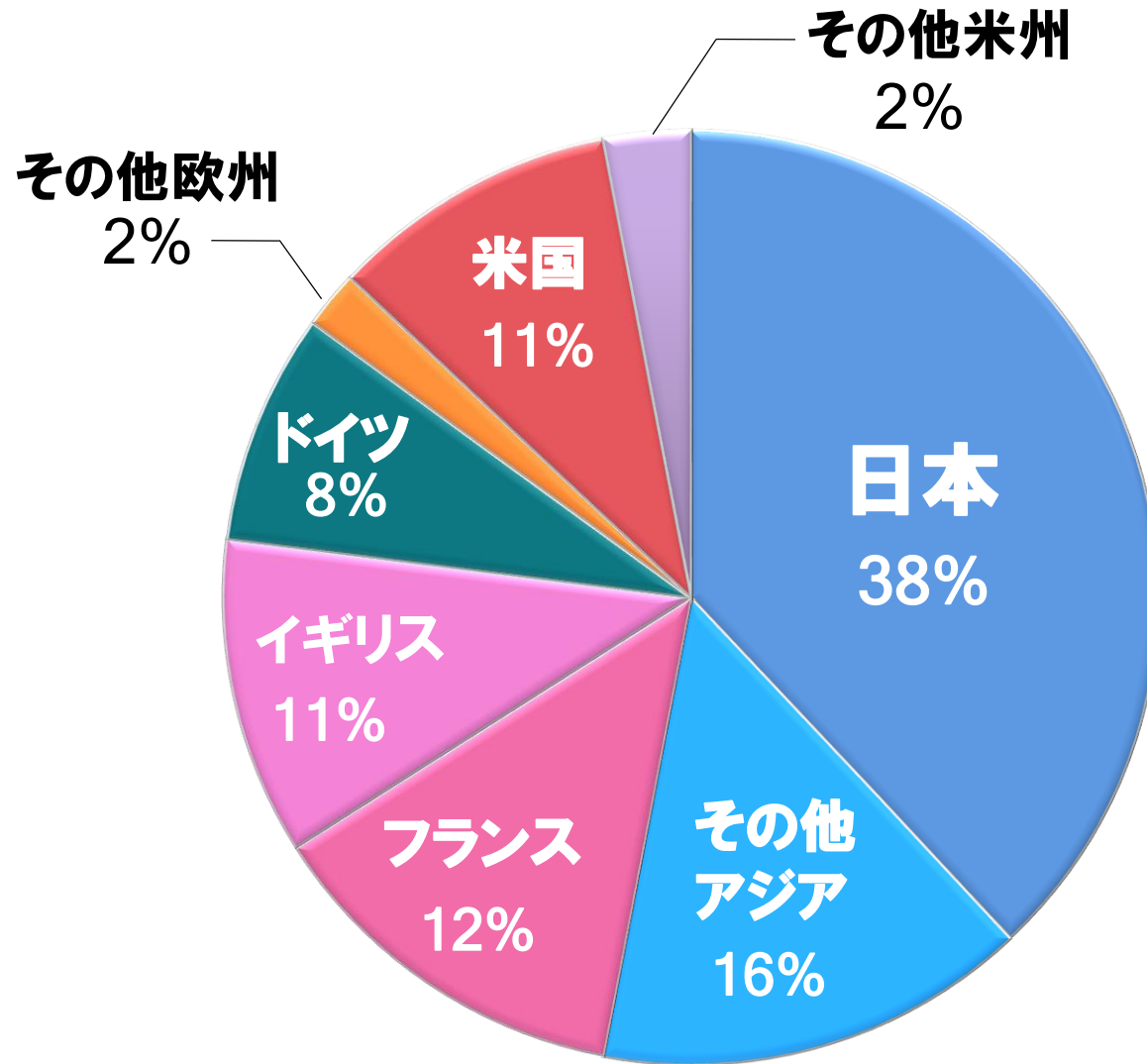
2017年地域別売上高比率



地域別グループ会社数 (2017年12月31日)

米州	9
欧州	22
アジア	17 * 日本4社(堀場製作所含む)
計	48

地域別従業員比



従業員数
2017年12月31日現在

7,399名

アジア: 4,041名

54%

欧州: 2,414名

33%

米州: 944名

13%

ご清聴ありがとうございました。